



火起こし体験

梵珠少年自然の家

1 活動のねらい

- ・摩擦熱で火起こしができることを、体験をとおして理解する。
- ・火を大切にすることを養う。

2 活動の概要

原始的な火起こしの方法である「舞ぎり」で火を起こす活動です。単独のプログラムとして行うだけでなく、起こした火を使って「野外炊事」を行うなど、他の活動へつなげることができます。

簡単に火は起きませんが、成功したときは大きな達成感や感動を味わうことができる活動です。

- (1) 人数 80人以内（1グループ3人～4人）
- (2) 対象 小学校5年生以上
- (3) 期間 4月下旬～11月下旬
- (4) 時間 1～1.5時間（説明20分+活動40分～70分）
- (5) 場所 キャンプセンター
- (6) 経費 200円/火きり杵セット1個
- (7) 指導 依頼のある場合、方法等について、自然の家職員が説明を行います。



＜活動の様子＞

3 準備物

団体	救急薬品
個人	軍手、運動しやすい服装
自然の家	火きり棒、火きり杵セット、麻ひも、新聞紙、ろうそく、風防付きろうそくたて、革手袋

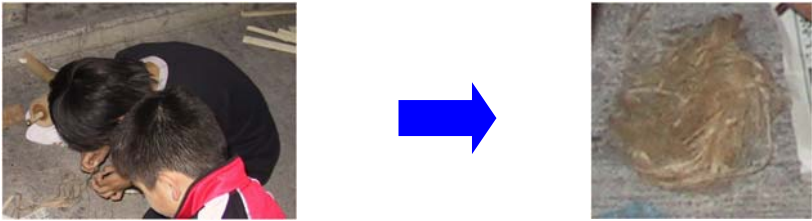
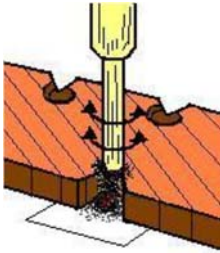
4 引率者の役割分担

役割名	内容
代表責任者	1名。全体の総括、指揮、連絡にあたる。
用具担当者	1～2名。用具の配付と管理を行う。
活動支援者	数名。子どもたちの活動を支援し、安全と事故防止に努め、緊急時に対応する。



＜舞いきりと火きり板＞

5 活動の流れ

	内 容
説 明 準 備	<ul style="list-style-type: none"> ・火起こしの手順、安全管理について説明 ・用具の貸出、配付
活 動	<p>①麻ひもをほどこき、鳥の巣のようにまとめる。</p>  <p>②新聞紙の上に火きり板を置き、一人が固定し、もう一人が火きり棒の横木を上下させ、摩擦を起こす。</p> <p>◎ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火きり板は動かないようにしっかりと固定する。 ・安定した上下運動を継続させる。交代する時は火きり板が冷えないうちに、素早く交代する。 <p>③火種を作る</p>  <p>火きり棒を回転し続けると煙が出てくる。さらに回し続けると、V字刻みの部分に黒い粉がたまっていく。V字刻みに黒い粉がどんどんでてきたら回転運動を速くし、黒い粉の中に火種ができたなら回転をやめる。火種に優しく息を吹きかけ赤く大きくする。</p> <p>◎ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・煙が出てきても回転は止めないこと。長時間回し続けることが大切。 <p>④火を付ける</p> <p>できた火種を作っておいた麻ひもの鳥の巣の上のせる。火種が鳥の巣から落ちないように注意しながら息を吹きかける。黒っぽい煙が出てきたら、あと少しなので、火がつくまで根気よく息を吹きかける。</p> <p>火がついたらろうそくへ点灯する。</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえり ・用具の返却と後片づけ

6 実施上の留意点

- ・2週間前までに、火きり杵セットの数を自然の家に連絡する。
- ・炊事などの前に行く場合、火起こしの活動時間が短くなりすぎないようにする。時間が少ないと成功するグループがない場合もある。
- ・活動時間の設定は移動時間を加味した余裕のあるものとする。（自然の家からキャンプセンターまで徒歩約10分）

7 安全に実施するためのポイント

- ・やけど防止のため、火種を扱う際は革手袋を着用する。